

Game Report

開催場所：鹿屋体育大学

試合区分：第 23 回全九州大学バスケットボールリーグ戦 男子 1 部

試合期日：2016 年 9 月 24 日(土)

試合時間：18:20～

主審：大久保 好純

副審：砂川 卓嗣

東海大学九州	○ 9 4	20	—1st—	11	● 6 8	鹿屋体育大学
		21	—2nd—	26		
		28	—3rd—	13		
		25	—4th—	18		

第 1 ピリオド

ここまで全勝で勢いに乗る東海大は、# 7 林のジャンプシュートを皮切りに、# 2 1 谷里、# 6 小澤の 3 P シュートを確実に沈める。なんとかこの試合をモノにしたい鹿体大も、# 1 7 土器手を中心にゴール下のシュートで喰らい付く。中盤、東海大が得意のアーリーオフenseで、鹿体大を突き放しにかかる。ここで離されるわけにはいかない鹿体大は、ここぞという場面で# 3 0 深江が、コーナーからの 3 P シュートを沈め、流れを引き戻す。20-11、東海大の 9 点リードで第 1 ピリオドを終える。

第 2 ピリオド

序盤から両チーム激しいディフェンスを繰り広げ、得点を挙げる事ができないまま時間だけが流れる。この状況を打破し、先にチャンスを掴んだのは鹿体大。ベンチメンバーの# 3 0 深江がバスケットカウントを決め、後に続かんとばかりに# 2 5 石山が 2 本の 3 P を沈め、流れをモノにする。しかし、東海大は焦ることなく# 7 林が淡々とジャンプシュートを決め続ける。ここまで互角の戦いは、41-37、東海大リードのまま第 2 ピリオド終了。

第 3 ピリオド

開始早々、第 2 ピリオドの流れそのままに、鹿体大は# 6 森山がジャンプシュートを沈める。しかし東海大も、すぐさま# 6 小澤が 3 P シュートを決め返す。この均衡した展開から抜け出したい東海大は、# 2 長野が的確にパスを回し、それを 4 年生の# 6 小澤、# 2 1 谷里が確実に沈める。その後も東海大は、オールコートでプレッシャーをかけ、鹿体大のミス誘い、怒濤の攻撃を繰り広げていく。69-50、東海大が 19 点差と大差をつけ第 3 ピリオドを終える。

第 4 ピリオド

ここまで試合を優位に進めてきた東海大は、ベンチメンバーを多く起用し、このピリオドに挑む。ここから巻き返しを図りたい鹿体大は、序盤からオールコートプレスを仕掛ける。これが功を奏し、ディフェンスが機能し、スティールから得点を重ね、再び東海大に詰め寄る。これ以上詰め寄せられない東海大は、# 2 6 山田の 3 P シュート、# 1 7 飯迫、# 4 9 藤森もこれに続き、ベンチの期待に応える。その後も、東海大の勢いを止めることはできず、タイムアップ。94-68、東海大が王者の貫禄を見せつけた。